



青山学院大学 大学院  
国際政治経済学研究科

*Graduate School of International Politics,  
Economics and Communication*



2018



# Research Beyond Borders

大学院に行ってみたい。みなさんがそのように思う動機は何でしょうか。社会人の方々の多くは、今自分が行っている仕事にしっかりとした理論的な裏付けを得たい、と思って大学院の戸を叩きます。例えば日々市場分析を行っている国際金融の実務家が、各国の金融政策がなぜ、どのように市場に影響を与えるのかを理論的に理解したい。外国人を多く受け入れる職場で働く方が彼らとのコミュニケーションの問題を痛感し、異文化コミュニケーションを理論的に理解したい。国防分野で実績のある方が、安全保障について理論的に問題を整理し、今後の国防のあり方を見定めたい。そのような動機で国際政治経済学研究科を志望します。

こうした動機はとても歓迎されるものです。なぜなら、社会科学は社会で起こっていることを観察し、疑問を感じるところから始まるからです。そしてそれを理論化し、検証していく。それが社会科学です。ですから、職場で様々なことを経験し疑問を得たみなさんは、すでに研究の第一歩を踏み出していると言っているのです。さらに、みなさんが職場で他の人には得難い情報を容易に得ることができるなら、研究の大きなアドバンテージになります。

もちろん、政治、経済、コミュニケーションに関わることがらは日常生活に深く関わることで、研究対象は職業に関わることにとどまりません。そこがビジネススクールとは大きく異なるところです。ですが、知を蓄え、今世界で起こっている事柄を理論的に理解し、新たな知を生み出す基盤を得ることは、皆さんのキャリアにとって大きな力となることでしょう。

われわれ国際政治経済学研究科が広く社会人に門戸を広げているのは、現場で多くの知識を得ているみなさんに、学問的なアプローチを知っていただき、ともに新しい知を生み出したいからです。

国際政治経済学研究科の各専攻のアドミッションポリシー（入学者受入れの方針）、カリキュラムポリシー（教育課程編成・実施の方針）、及びディプロマポリシー（修了認定・学位授与の方針）は、本学Webサイトにてご確認ください。  
青山学院大学Webサイト（<http://www.aoyama.ac.jp>）⇒大学案内⇒情報の公表⇒教育方針・教育課程に関する情報



国際政治経済学研究科長  
**内田 達也** Uchida Tatsuya

## グローバルイシュー解決のための知の創造を

国際政治経済学研究科は1986年に設置され、政治学、経済学、言語学等の研究者や、この分野に関わる専門的職業人を輩出してきました。本研究科は、開設当初から、それまで日本の大学院で主流だった徒弟制度的な大学院教育を排し、コースワークの充実と集団的指導によって、開かれた大学院を

標榜してまいりました。また、昼夜間のクラス開講によって、社会人に広く門戸を開けているだけでなく、多くの留学生も本研究科で学んでいます。

したがって、そこに集う院生の研究目的も様々です。研究者を目指す者もいれば、長年職場で培った知識や経験を論文に昇華させるためのライフワー

# 3 社会人にも門戸が広い大学院 国際政治経済学研究科が研究に適する 3つの理由

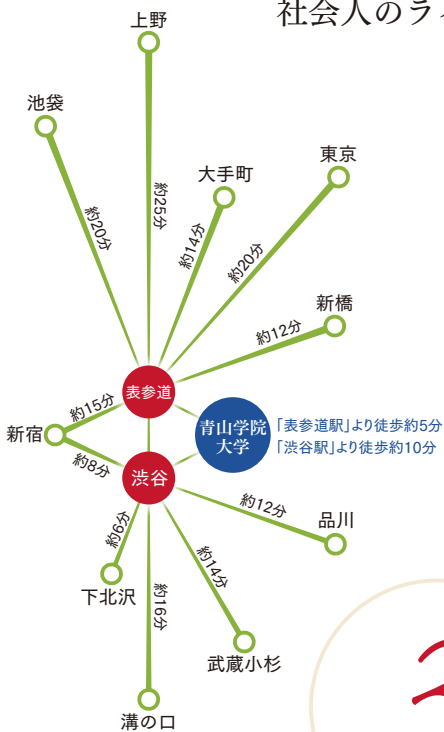
## 1 開講時間 Timetable

夜間帯と土曜日の履修で修了も可能。  
社会人のライフスタイルに合わせた学びを実現します。

1週間の時間割(例)

時間	月	火	水	木	金	土
9:00-10:30						●
11:00-12:30						●
13:20-14:50						●
15:05-16:35						●
16:50-18:20		●				
18:30-20:00		●	●	●		

夜間帯と土曜日に  
開講時間を集中



青山学院大学までのおおよその所要時間

## 2 多様な研究へのアプローチ Approach

職業人として、専門研究者として、ライフワークとして…  
さまざまな研究目的を満たす場が、ここにはあります。

ビジネススクールにない、政治学、経済学、コミュニケーション（言語学・文化研究・コミュニケーション科学）分野での研究で、キャリアアップを実現できます。

## 3 アクセス Access

「渋谷駅」「表参道駅」至近。都内近郊からの通学に最適なロケーションです。

クとして研究をする者もいます。また、民間の研究所等で働いている方が、より専門的な知識やスキルを求めて本研究科を利用するケースもあります。

本研究科の目指しているのは、研究の場を多くの人々に提供し、そこに集う人々と一緒に政治、経済、コミュニケーションに関する新しい知見を生み

出すことです。グローバル社会には、貧困、地域紛争、国際テロ、国際金融不安、地球環境破壊、宗教的摩擦など様々なグローバルイシューが横たわっています。それらの解決に向けて研究に取り組もうとする多くの、そして様々な方に本研究科に集っていただきたいと願っています。

## Contents

各専攻指導方針とキャリアプラン	3
修了生のメッセージ	4
国際政治学専攻	5
国際経済学専攻	7
国際コミュニケーション専攻	9
修了方法	11
研究テーマ	12
入学試験概要・入試日程	13
FAQ	14

# 各専攻指導方針とキャリアプラン

## 新しい知見を創造し、国際的に貢献できる人材の育成

国際的な社会課題に対する研究アプローチは一つではありません。例えば、「移民問題」に対しては、政治学からも、経済学からも、コミュニケーションからも研究できます。国際政治経済学研究科では、みなさんの関心とキャリアプランに即して、国際政治学専攻、国際経済学専攻、国際コミュニケーション専攻の3専攻を用意すると同時に、専攻を超えて科目履修が可能です。

## 国際政治学専攻

国際政治学専攻では、国際政治を理論的に捉え、実証的に分析し、国際問題に対する現実的解決策を見出す能力を身につけることを目標としています。

本専攻には、学部の卒論等で国際政治学のテーマを学習した後でさらに専門的な研究を望む方、学部では体系だっ  
て国際政治学を専攻しなかった方、さらには社会人、アカ  
デミック・リターン入試で入学する方など様々な背景を持  
つ学生がいます。そのすべての方々が、2年間という限ら  
れた期間で国際政治学の基礎から専門知識まで習得し、そ  
れぞれのテーマで修士論文を完成させることを可能とする

ために、この分野の大学院としては最大級に幅広い科目を  
オファーすると共に、徹底した少人数教育を行っています。

学位取得後は、一般企業への就職から外務省、防衛省な  
どの省庁でのキャリアアップ、そして国際機関の職員さら  
には本学博士後期課程を含め国内外の大学院へ進学・留学  
してさらに研究を続け、大学教員となる修了生も数多くい  
ます。

## 国際経済学専攻

国際経済学専攻では、国際経済事象を理論的に捉え、実証的に分析し、国際経済諸問題に対する解決能力を身につけることを目標としています。

本専攻の特徴は大きく3つ挙げることができます。第  
1に、理論と実証のバランスのとれた授業構成。第2に、  
国際経済関連の充実した授業構成、特に国際金融、国際貿  
易、国際開発の充実。第3に、中級レベルの経済学の習得  
から始めることもできる授業構成。以上により、経済学を  
学んだがだいふ時間が経ってしまったという社会人の方や、  
経済学部出身ではないという方たちでも、国際経済の理解

と分析能力を深め、実践的に活用したいという目的が達成  
されるようデザインされています。

修士取得後のキャリアプランとしては、私企業では経済  
系シンクタンク、アナリストなどがあります。また、研究  
の道に進むため、博士課程に進学したり、留学をする人た  
ちもいます。博士まで進んだ学生は、大学の教員や研究所  
の研究職に就いています。

## 国際コミュニケーション専攻

国際コミュニケーション専攻では、国際的な諸事象の解明に必要な言語・文化・コミュニケーションについての理論と応用力を身につけることを目標としています。

本専攻では、国際社会における諸事象・諸問題を国際コ  
ミュニケーションの観点から分析・考察し、現象の理解と  
問題の解決に寄与する知見の構築および発信に必要な知識  
とスキルを学生が身につけられるよう指導します。学位取  
得後は、リサーチの知識やスキルを活かして調査会社に就  
職するケースや、国際コミュニケーションの専門知識や語  
学力を活かしてグローバル企業に就職するケースが多くみ

られます。また、社会人入学をする学生の場合は、通訳、  
翻訳、外国語教育、日本語教育といった分野や、グローバ  
ル企業や独立行政法人で既に活躍している高度職業人が多  
く、学位取得が修了生の更なるスキルアップや昇格に繋  
がっています。その他、常勤または非常勤講師として、大  
学・大学院教育に従事する修了生も数多く輩出しています。

# 修了生のメッセージ

## 新しい視点を培った2年間

外務省入省以来、自分の専門地域として自分なりに勉強し取り組んできたインドの外交政策について、研究対象としてとらえなおし学術論文にまとめたと考えて、アカデミック・リターンとして国際政治学の修士課程に入学しました。仕事では、様々な外交活動にかかわる日々の業務に追われ、客観的にアカデミックな視点から外交を客観的に見る事ができないので、大学院に入学して、国際政治学の視点から、外交政策や外交をどのように見るべきかを学びたいと思ったのです。

平日夜や土曜日に、ゼミや授業に出席し、アジア太平洋地域の国際関係や国際政治学の理論などを学びなおしました。指導教官の菊池努先生のゼミでは、授業に出席していた他の社会人の方々や若い大学学部生や院生からも刺激を受け、多くの論文を読み議論しました。

大学院入学以前のインド担当としての仕事やインドを含む海外での在勤経験の間に、日々の政治情勢や外交の動向などを追い、論文なども読み分析する経験がありました。しかし、インドの外交活動をどう捉え直し国際政治学の論文としてまとめるか、国際政治学からどのように見るのかというのは、全く異なる知的作業です。修士課程で、様々な論文や、本を読み進める中で、新しい視点や考え方が形成されたように思います。

大学院での勉強を続けることと仕事との両立には様々な困難もありましたが、指導教官の叱咤激励もあって、仕事の傍ら何とか修士論文を纏められたと思います。この修士課程2年間は、自分の専門性を高める新しい視点や考え方を培う貴重な機会となりましたし、インドを研究する新しいツールを得たと思います。



国際政治学専攻 修士課程  
2015年3月修了  
外務省 在インド日本国大使館  
佐藤 仁美さん



国際経済学専攻 修士課程  
2013年3月修了  
HSBC証券 金融法人営業本部  
マクロ経済戦略部長  
城田 修司さん

## 社会人にも広く門戸が開かれた大学院

国際経済学を専攻し、2013年に修士課程を修了しました。それまで金融機関で20年以上にわたりマクロ経済や金融市場などの分析業務を行ってきたのですが、大学院で経済学を体系的に学び直してステップアップを図りたいと思ったのが入学のきっかけです。また、2008-09年のグローバル金融危機以降、従来の枠を超えた分析が必要と感じたことも理由の1つでした。

青山学院大学の大学院は、平日夜や土曜日のカリキュラムが充実しており、私のように社会人として働きながら修学する者にも広く門戸が開かれています。大学院で学んだ経験は、現在の業務に有形・無形のフィードバック効果を与えています。今振り返ると、特に3つの点で良かったと思えることがあります。

1つめは授業や論文指導を通じて、講師陣の方々とディスカッションをしたことです。経済は生き物であり、日々刻々と変化する国際情勢について貴重なご見解を

伺うことができました。

2つめは修士論文の執筆で、現在の金融政策について踏み込んだ分析をしたことです。竹田憲史先生の指導の下、「金融政策の透明性強化が金融市場に与える影響に関する一考察」という論文を執筆しました。ゼロ金利・マイナス金利政策や量的緩和策など、主要中央銀行は様々な非伝統的金融政策に足を踏み入れています。こうした政策のインプリケーションを検証するうえでも、時宜に合った題材を研究することができました。

3つめは、「ご縁」があって青山学院大学の非常勤講師を務めさせていただいていることです。将来を担う若い世代に私が学んだことを伝え、ささやかながらも社会還元ができているかと思っています。同時に学生達による質問や授業の感想は、私にとっても貴重なフィードバックとなっています。

## かけがえのない出会いと学びの場

私は長年にわたり、組織・人材開発を専門とする会社で、さまざまな企業の人材育成の仕事に携わってきました。近年、企業のグローバル展開に伴い、海外赴任者や現地従業員員の教育、国内スタッフのグローバル化やグローバル経営に貢献できるリーダーの育成など、人材のグローバル化に関わる課題に対応する機会が増え、異文化コミュニケーションに関係する理論を深く学んでみたい、と思うようになりました。そんな折、青山学院大学の国際政治経済学研究所に、国際コミュニケーション専攻コースがあること、また実務経験を研究に結晶させることを目的としたアカデミック・リターン入試の制度があることを知り、進学を決めました。

入学後は、コミュニケーション論、リサーチ・メソッドなどの基本科目、およびインターカルチュラル・ダイアログ/エシックス/レトリック、多文化関係論、国際コミュニケーション特講、エスノグラフィック・メソッド入門などの専門選択科目の履修を通じてさまざまな理論や手法に触れ、新たな知識や視点を得ることができました。また、海外から異文化トレーニングの権威を招

いて行われた集中講義の受講も、貴重な学びの機会となりました。

修士論文研究は、「グローバル人材」の要件に関する考察を、質的な側面から行いました。「グローバル人材」を研究テーマに選んだのは、その育成ニーズが活発化していく中で、「グローバル人材」に関する定義や要件が明確ではない、抽象的でわかりづらい、複数存在し定まっていない、などの指摘を多く見聞きし、問題を感じていたからでした。兼ねて問題に感じていたことを研究テーマとして取り上げ、アプローチできたことは、非常に有意義な経験となりました。

本研究科では、年齢、バックグラウンド、国籍などの異なる仲間や、それぞれに専門が異なる先生方との活発な交流があり、多様性に富んだ環境の中で充実した時間を過ごすことができました。仕事と学業の両立は容易いことではありませんでしたが、本研究科における出会い、学び、研究の経験は、何物にも換え難い価値があった、と感じています。



国際コミュニケーション専攻  
修士課程2016年3月修了  
組織・人材開発コンサルタント  
多田 晴美さん



## 最先端の国際政治学研究と、 充実したキャリアアップ、研究者養成プログラム

本専攻では、安全保障コース、グローバルガバナンスコースという二つのコアコースを設け、国際政治の基礎から、専門的な安全保障、グローバルガバナンスの理論・政策まで、実務及び研究双方に役立つ幅広いカリキュラムを設けています。集中講座も開講されています。本専攻では、特に省庁からのキャリアアップ、アカデミックリターン入学を歓迎します。

### 主な就職先

国家公務員（外交官・各省庁職員）、自衛官、国際協力機構（JICA）職員、国連機関職員、国際NGO職員、報道機関記者ほか

## 修士課程

修士課程入学定員：25名

国際政治学専攻は、安全保障コースとグローバルガバナンスコースから構成されています。地域研究や外交史も本専攻では主要講座として多く開講していますが、これらは安全保障、グローバルガバナンス共に関連する科目となります。

国際政治学専攻は国際政治学の各分野で研究者を目指す人、また、国際機関や官庁など実務の道に進みたい大学院生のために準備されており、国際政治学の基本から専門分野まで体系的な訓練を受けることができます。また、実務

家による講座も設けられています。過去、本専攻からは多くの国際政治研究者や、地域研究者、実務家を輩出してきました。

本専攻では、社会人のキャリアアップ・アカデミックリターン入学を特に奨励しています。実務家が再び国際政治理論や、政策・事象分析の方法論に立ち返り、自らのキャリアのステップアップに役立てると同時に、国際政治学に実務的視野を反映させることに貢献することを目指します。

### ●安全保障コース

安全保障コースは、国際政治学の中でも、戦争と平和、安全の問題を主要な研究対象とする「安全保障」を専門的に研究するプログラムです。戦争の原因、勢力均衡や同盟をめぐる諸問題、危機管理といった伝統的な安全保障問題に加え、日本の政治と安全保障、非伝統的・新領域の安全保障問題、内戦、平和活動などのグローバルな軍事安全保障問題を理論、実証、政策にわたって検討します。研究者、実務家それぞれの目的に合わせ、体系的に講座が配置されています。

### ●グローバルガバナンスコース

グローバルガバナンスコースは、主権を中心とした国際政治の伝統的枠組みを超え、国家間協力や制度、市場と国家の関係、国際秩序の問題を地球的視野から捉えようとするプログラムです。専門領域としては、貿易や金融など「市場」と「国家」との関係の研究する国際政治経済学、グローバル・コモンズとしての環境の保持を巡る制度と問題、そして、国際協力、国際機構・公共政策とに分けられます。研究者はもとより、これから国際機構やNGOなどでの実務に進むことを希望する人に道を開きます。

## 博士後期課程

博士後期課程入学定員：3名

修士課程を修了したあと、さらに本大学院で研究に専念したい方のために、博士後期課程が設けられています。博士後期課程は、主に研究者を育成するための、より高度で専門的なプログラムです。博士候補に選ばれた方は、現代の国際政治を理解するうえで重要な具体的研究テーマを選び、5人の指導教員の下で博士論文を仕上げ、論文の審査

を受けます。今まで本大学院の国際政治学専攻から博士号を取得した者は14人おり、大学などで教鞭をとったり研究職についています。

# カリキュラム

## A群科目

政治理論／国際政治学／国際政治経済論／地域研究方法論／社会科学方法論／国際関係思想／比較政治学／安全保障理論／欧州外交史／国際法／ミクロ経済学基礎／マクロ経済学基礎／国際経済学Ⅰ／統計分析Ⅰ／ゲーム理論Ⅰ

## 安全保障コースB群科目

外交政策論／安全保障政策／国際関係史／近代日本政治外交史／EU研究／国連研究／国際平和活動論／アメリカ外交／アメリカ政治／ヨーロッパ政治／ヨーロッパ外交／ロシア政治外交／中央アジア政治外交／中国政治／中国外交／アジア太平洋政治／アジア太平洋外交／中東政治外交／アフリカ政治外交／南アジア政治外交／東南アジア政治外交／中南米政治外交／朝鮮半島政治外交／人間の安全保障／平和構築論／日本の安全保障／戦略研究／新領域の安全保障／インテリジェンス／政軍関係／国際政治学特論／国際政治学特講／国際政治学演習Ⅰ／国際政治学演習Ⅱ

## グローバルガバナンスコースB群科目

グローバルガバナンス論／国際制度論／国際環境論／グローバル・イシューズ／国際行政論／国際NGO論／現代国際政治経済論／インターカルチュラル・エシックス／多国籍企業論／国際公共政策Ⅰ／国際公共政策Ⅱ／環境経済学Ⅰ／環境経済学Ⅱ／資源・エネルギー政策／国際開発政策／国際経済法／EU研究／国連研究／国際人権法／アメリカ外交／アメリカ政治／ヨーロッパ政治／ヨーロッパ外交／ロシア政治外交／中央アジア政治外交／中国政治／中国外交／アジア太平洋政治／アジア太平洋外交／中東政治外交／アフリカ政治外交／南アジア政治外交／東南アジア政治外交／中南米政治外交／朝鮮半島政治外交／人間の安全保障／平和構築論／国際政治学特論／グローバルガバナンス特講／国際政治学演習Ⅰ／国際政治学演習Ⅱ

# 教員紹介 2017年度(2018年度については変更の可能性があります)

**専任** 修士課程・博士後期課程ともに、研究指導を担当するのは、学生が所属している専攻の教授・准教授となります。

### 阿部 達也 教授

京都大学法学部卒。同大学院法学研究科博士後期課程修了、博士(法学)。国際法学。

担当科目：国際法、国際政治学特論

### 大芝 亮 教授

一橋大学法学部卒。イェール大学Ph.D.(政治学)。国際関係理論、グローバル・ガバナンス論。

担当科目：グローバル・ガバナンス論、平和構築論

### 押村 高 教授

早稲田大学政治経済学部卒。同大学院博士課程修了、政治学博士。パリ第二大学大学院に留学、DEA取得。政治思想史・フランス政治。

### 菊池 努 教授

一橋大学大学院博士課程修了、法学博士。オーストラリア国立大学大学院に留学。APECやアジア・太平洋地域研究。

担当科目：アジア太平洋政治、アジア太平洋外交

### 武田 興欣 教授

東京大学法学部卒。プリンストン大学大学院に留学、Ph.D.取得。政治学(アメリカ現代政治)・アメリカ研究。

担当科目：アメリカ政治、社会科学方法論

### 土山 實男 教授

青山学院大学法学部卒。ジョージ・ワシントン大学大学院、メリランド大学大学院に留学、Ph.D.取得。国際政治学・国際安全保障論。

担当科目：安全保障理論、安全保障政策

### 羽場 久美子 教授

津田塾大学大学院国際関係学研究科博士課程修了。学術博士(国際関係学)。ハーバード大学、ロンドン大学、パリ大学客員研究員。ヨーロッパ国際政治、アジアと欧州の地域統合、アメリカの役割、グローバル・ガバナンス、移民・難民問題、国際政治学、冷戦史、地域統合論、ナショナリズム論。

担当科目：EU研究、比較政治学、地域研究方法論

### 山影 進 教授

東京大学教養学部卒、マサチューセッツ工科大学Ph.D. 京都大学助手、東京大学助教授、同教授を経て、青山学院大学教授。国際関係理論、比較地域体系論、人工社会構築論。

担当科目：国際政治学、人間の安全保障

### 林 載桓 准教授

ソウル大学社会科学部卒。東京大学大学院法学政治学研究科博士課程修了。現代中国政治外交。

担当科目：中国政治、中国外交

### 倉松 中 准教授

国際基督教大学卒。英国キール大学大学院、ロンドン大学大学院に留学。外交史。

担当科目：欧州外交史、国際関係史

### BOYD, J.P. 准教授

コロンビア大学東アジア研究学部卒。マサチューセッツ工科大学大学院修士(M.S.)。マサチューセッツ工科大学大学院博士(Ph.D.) (政治学)。2013～2016年、早稲田大学アジア太平洋研究科助教。比較政治、国際関係論、戦後日本の政治。

担当科目：外交政策論、国際政治学特論

### 渡邊 理絵 准教授

東京大学法学部卒業、ベルリン自由大学政治社会学研究科(Otto-Suhr Institut)修了(政治学博士) 環境政治・政策(特に日本とドイツの気候エネルギー政治)、政策過程論

担当科目：国際環境論、国際政治学特論

### 和田 洋典 准教授

慶應義塾大学経済学部卒。ロンドン・スクール・オブ・エコノミクス(LSE)修士、一橋大学大学院博士課程修了。法学博士。国際政治経済論。

担当科目：現代国際政治経済論、国際政治経済論

### 佐桑 健太郎 助教

京都大学文学部卒。インディアナ大学Ph.D.(政治学)。国際関係理論、紛争研究、計量政治分析。

### 田中(坂部)有佳子 助教

青山学院大学国際政治経済学部卒。コーネル大学大学院修了(MPA)。政府・国際機関等での勤務後、早稲田大学大学院政治学研究科博士課程修了、博士(政治学)。比較政治学、国際関係論。

担当科目：政治理論、国際政治学特論



## 多様な経済現象をグローバルな観点から学び、 新たな視野を切り拓く

国際金融、貿易、開発、環境、国際経営を中心に、関連する諸問題を論理的にとらえ、的確な理解、分析、政策立案、企業戦略に資する研究・教育の場を提供します。本専攻はすでに約30年の歴史を持ち、大学研究者、一般企業の管理職、研究機関の研究者など、各界で活躍する多くの人材を輩出しています。

### 主な就職先

経済・証券アナリスト、シンクタンク・エコノミスト、研究所研究員、大学教員など

## 修士課程

修士課程入学定員：20名

グローバル化が進む現代社会において、国際経済学の役割は、ますます重要になっています。

国際的な経済現象を、経済理論を踏まえて適切に把握し、さらに有効な政策手段を提示する政策科学として理解するために、国際経済学専攻修士課程は次の分野を中心とするカリキュラムを用意しています。第1は、国際経済学・ゲーム理論・ミクロ経済学・マクロ経済学そして実証研究のための統計分析といった経済理論の分野です。第2は、国際金融・国際経済政策・国際産業組織など主に先進諸国間の国際経済政策にかかわる分野です。そして第3は、国際開発論・国際開発政策・アジア経済論・国際環境論な

どの開発途上国やアジアを対象とする分野です。国際援助機関や欧米先進国の援助方式と日本のそれとのあいだに政策や哲学の違いもみられますが、日本の発展途上国の健全な開発への協力は、わが国の将来をかけた最重要課題のひとつです。

本専攻では、理論と実証の双方から高度の専門知識をもつ国際経済の専門家が多様な領域についてのエキスパートを養成しています。本専攻は、最新の理論と数量的手法を基礎から学ぶことで、今日の経済課題をさまざまな視点から科学的に考察できる実力を備える人材の育成を目指します。

### ●国際経済コース

本専攻では、経済学の基礎から応用までを学ぶことができます。現代の経済、社会問題の理解に欠かせない統計分析の手法も初歩から学べます。既に基本知識を有している方には、高度な内容の授業も準備しています。社会に出る前に、より専門的な知識を得たい学生の方、将来研究者を志望する方、キャリア・アップを図り一層充実した職場生活を送りたい方、社会人としての経験を学問的に考究し、論文や著書としてまとめてみたい方、現在の生活から1歩踏み出し、知的なチャレンジをしてみようと思う方、このような方々に、少人数のクラスで懇切丁寧に指導します。

## 博士後期課程

博士後期課程入学定員：3名

国際経済を学ぶには、時代を超えた理論的展開を理解する能力が必要です。絡まった糸を丁寧に解く精神力と激しく変化する国際経済を適切に捉えて正しい方向に社会を向かわせる経済理論が、これまで以上に求められています。国際経済学専攻博士後期課程では、国際経済にかかわる理

論と実証研究双方についての第一線の教授たちが、研究者の養成のための高等教育プログラムを指導しています。これまでに12人が本専攻から博士号を取得して研究職などについています。



# カリキュラム

## A群科目

ミクロ経済学Ⅰ／ミクロ経済学Ⅱ／マクロ経済学Ⅰ／マクロ経済学Ⅱ  
／情報と組織の経済Ⅰ／情報と組織の経済Ⅱ／ゲーム理論Ⅰ／ゲーム  
理論Ⅱ／経済数学Ⅰ／経済数学Ⅱ／計量経済学Ⅰ／計量経済学Ⅱ／統  
計分析Ⅰ／統計分析Ⅱ

## B群科目

国際経済学Ⅰ／国際経済学Ⅱ／金融論Ⅰ／金融論Ⅱ／国際金融Ⅰ／国  
際金融Ⅱ／国際経済政策Ⅰ／国際経済政策Ⅱ／国際産業組織Ⅰ／国際  
産業組織Ⅱ／多国籍企業論／公共経済学／国際公共政策Ⅰ／国際公共  
政策Ⅱ／開発経済学／国際開発政策／開発金融／環境経済学Ⅰ／環境  
経済学Ⅱ／資源・エネルギー政策／アジア経済／東アジア経済／アメ  
リカ経済／ヨーロッパ経済／日本経済／日本経済史／応用ミクロ経済  
分析／国際労働経済／国際経済学特講／国際経済学演習Ⅰ／国際経済  
学演習Ⅱ

## 教員紹介 2017年度(2018年度については変更の可能性がります)

**専任** 修士課程・博士後期課程ともに、研究指導を担当するのは、学生が所属している専攻の教授・准教授となります。

### 内田 達也 教授

青山学院大学国際政治経済学部卒。同大学院  
博士課程修了、博士（国際経済学）。国際経  
済学専攻。カーネギーメロン大学客員研究員  
を務めた。知的所有権と市場経済とのかわり  
を研究している。論文多数。

### 内山 義英 教授

青山学院大学国際政治経済学部卒。同大学院  
博士課程修了、博士（国際経済学）。国際経  
済学専攻。日本の貿易構造の特性について研  
究している。

担当科目：国際経済学Ⅰ

### 大野 昭彦 教授

一橋大学大学院博士課程修了、博士（経済  
学）。経済開発論専攻。インド、タイ、ラオ  
ス等の地場産業の調査や農村の経済取引形態  
の研究をしている。論文多数。

担当科目：アジア経済、開発経済学

### 岡村 稔 教授

青山学院大学経済学部卒。同大学院博士課程  
単位取得退学。理論経済学専攻。ペンシル  
バニア大学客員研究員を務めた。専門誌に多  
数の論文を発表している。

担当科目：ミクロ経済学Ⅰ・Ⅱ

### 加治佐 敬 教授

青山学院大学国際政治経済学部卒。ミンガ  
ン州立大学農業経済学Ph.D. 専門は開発経済  
学。世界銀行、国際開発高等教育機構、政策  
研究大学院大学、International Rice Research  
Instituteを経て本学。「近代化と村落共同体の  
変容」というテーマで研究を進めている。

担当科目：国際開発政策、国際公共政策Ⅱ

### 木村 光彦 教授

北海道大学経済学部卒。大阪大学大学院博士  
課程修了、経済学博士。経済学・経済史専  
攻。著書に『北朝鮮の経済一起源・形成・崩壊』  
（創文社、1999年）など。

担当科目：日本経済史、東アジア経済

### 竹田 憲史 教授

早稲田大学政治経済学部卒。ウィスコンシ  
ン大学大学院に留学、Ph.D. 取得。金融論専攻。  
日本銀行金融研究所を経て本学に。為替介入  
の為替レートへの影響、為替レートの変動が  
国内物価に及ぼす影響、銀行の貸し渋りが中  
小企業に及ぼす影響などを研究している。

担当科目：計量経済学Ⅰ・Ⅱ

### 友原 章典 教授

早稲田大学政治経済学部卒。ジョンズホプ  
キンス大学大学院Ph.D. 取得。カリフォルニア  
大学ロサンゼルス校、ピッツバーグ大学大  
学院勤務を経て、本学に。世界銀行や米州開  
発銀行にてコンサルタントを経験。FDI・移  
民等を研究。

担当科目：国際経済学Ⅱ、多国籍企業論、公共経済学

### 中川 浩宣 教授

慶應義塾大学経済学部卒。ニューヨーク大  
学大学院、コロンビア大学大学院に留学、  
M.B.A.、Ph.D. 取得。国際金融専攻。IMF や  
アジア諸国の発展と通貨制度に関する多くの  
論文がある。

担当科目：国際金融Ⅰ・Ⅱ

### 本田 重美 教授

青山学院大学経済学部卒、同大学院博士課程  
修了。理論経済学専攻。三菱総合研究所研  
究員、コロンビア大学客員研究員を勤めた。『消  
費生活に関するパネル調査（第1、2、3、7  
年度）』（大蔵省印刷局、1995年～2000年）。  
『現代アメリカの経済政策と外交政策』（三省  
堂、1999年）。『パネルデータから見た現代  
女性』（東洋経済新報社、1999年）。厚生労  
働省、労働経済・統計分析研究会委員（1992  
年～2004年）。労働省、沖縄県職業能力開発  
推進事業研究会座長（1997年～1998年）など。

担当科目：マクロ経済学Ⅰ、国際労働経済

### 白川 方明 特任教授

東京大学経済学部卒。シカゴ大学MA。日本  
銀行に勤務。2008年3月から2013年3月ま  
で日本銀行総裁。金融政策、中央銀行論。著  
書は「現代の金融政策—理論と実際」、「パ  
ブルと金融政策—日本の経験と教訓」等。

担当科目：金融論Ⅰ・Ⅱ

### 飯坂 ひとみ 准教授

カリフォルニア州立大学サンタクルーズ校  
経済学部卒。同大学院応用経済学部、  
M.S. 取得。同大学院、国際経済学部、M.A.、  
Ph.D. 取得後、経済学部研究員、香港大学大  
学院経済学部客員助教授を経て本学に。多国  
籍企業論、東アジア域内での国際分業と貿易  
などを研究。

### 瀬尾 佳美 准教授

大阪大学理学部卒。クラーク大学大学院に留  
学。筑波大学大学院博士課程修了、博士（都  
市・地域計画）。地球温暖化等のグローバル  
リスクについて研究を行っている。著書に  
『リスク理論入門』（中央経済社、2005年）

担当科目：環境経済学Ⅰ

### 鶴田 芳貴 准教授

青山学院大学国際政治経済学部卒。筑波大学  
大学院修了、博士（社会経済）。金沢大学を  
経て本学に。産業組織論、特に競争政策に関  
連する諸問題の実証分析を行っている。

担当科目：国際産業組織Ⅰ・Ⅱ

### 小橋 文子 助教

慶應義塾大学総合政策学部卒、同大学院  
経済学研究科博士課程修了、博士（経済学）。  
専門は国際貿易論、貿易政策。国際的生産  
ネットワークをめぐる諸問題、および、国際  
的生産ネットワークの進展下での貿易政策の  
役割について理論・実証研究を進めている。

担当科目：応用ミクロ経済分析、国際経済学特講



## グローバルな視野の下で言語・文化・コミュニケーションという人間の営みを教育・研究する

本専攻は、1994年に国際ビジネス専攻、1996年に国際コミュニケーション専攻として始まりました。豊かな経験の蓄積を大切にしつつ、海外の大学院、研究機関との協力により、学生と教員が常に独創的・先端的な研究を進めています。

### 主な就職先

言語・文化論・コミュニケーション分野での研究者、または大学教員、日本語・英語などの語学教育、マスコミ、通訳・翻訳、開発援助、国際協力、商社等の国際企業など

## 修士課程

修士課程入学定員：25名

本専攻は言語学、地域文化・比較文化論、コミュニケーション学の3つを柱としています。言語については、言語の機能や構造などを基礎から学びます。言語と密接な関係にある文化については、ヨーロッパ・アジア・アメリカなど様々な地域文化研究や比較文化研究を行うことができます。さらに国際コミュニケーション、異文化コミュニケーション、対人コミュニケーション、多文化共生などの領域における諸理論を学びます。

本専攻には主に3つの特徴があります。第一に、カリキュラムが他専攻と繋がっているので、研究テーマをミク

ロ、マクロの両方の視点から有機的に学ぶことができます。第二に、理論研究、実証研究の両方が充実し、とくに研究法関連のコース内容は多岐にわたっています。第三に、研究課題の立案や文章表現のコースなど、論文執筆に係るサポートも充実しています。

本専攻には、一般学生のみでなく、企業や官公庁、語学教育、マスコミ、開発援助、通訳・翻訳そして国際協力の最前線にいる方が多く在籍しています。修了後、より高度な専門性を職場で発揮する方や、大学・短大レベルの教員として活躍する方も多々います。

### ●国際コミュニケーションコース

本専攻は、国際コミュニケーションの専門的な知識とスキルを学生が幅広く身につけられるように、言語、文化、コミュニケーションの3分野の専門科目（基礎科目（A群）と発展科目（B群））を1コース内に配置しています。1コース制のメリットとして、学生が各自の関心に基づき3つの分野を横断する独自の履修プランをデザインできることが挙げられます。そのため、様々な科目を履修する中で、入学時とは異なる研究分野に関心をもった場合でも、研究内容と研究アプローチを柔軟に変更することができます。3つの分野のどこに重点を置くかによって、修士論文・課題研究論文を執筆する際の指導教員を選ぶことができます。最後に、指定された科目を履修することで、専門社会調査士の資格申請が行えることを特記しておきます。

## 博士後期課程

博士後期課程入学定員：3名

国際コミュニケーション専攻博士後期課程は、関連分野で修士課程を修了した方にさらに高い研究能力と、豊かな学識を身につける機会を提供します。

本課程では、国際コミュニケーションの実践面より理論面に重点が置かれます。したがって、言語学（言語科学、社会言語学など）、地域文化・比較文化論、コミュニケーシ

ョン学（国際、異文化、対人）の各分野における修士課程での研究を踏まえて、さらにそれぞれの領域をより深く掘り下げていくことが求められます。これまでに14名が本専攻から博士号を取得しています。

# カリキュラム

## A群科目

コミュニケーション論／言語科学／社会言語学／比較文化論／文化と世界観／研究課題の立案とプレゼンテーション／リサーチ・メソッド／行動科学の統計学／文章表現法

## B群科目

国際コミュニケーション論／インターカルチュラル・レトリック／ディスコース・アナリシス／プラグマティクス／多変量データの解析法／コミュニケーションの心理学／ヘルス・コミュニケーション／インターカルチュラル・エシックス／エスノグラフィック・メソッド入門／対照言語学／認知意味論／認知文法論／現代言語学特殊講義／言語政策論／言語文化論／多文化関係論／キリスト教文化論／日本の文化と歴史／アメリカ文化論／中国の文化と歴史／ヨーロッパの文化と歴史／ユーラシア文化論／ラテンアメリカ文化論／国際コミュニケーション特講／インターカルチュラル・ダイアログ／言語科学特講／現代言語学諸問題／エスノメソドロジーと会話分析／比較文化特講／地域文化特講／日中文化比較論／国際コミュニケーション演習Ⅰ／国際コミュニケーション演習Ⅱ

## 教員紹介 2017年度(2018年度については変更の可能性があります)

**専任** 修士課程・博士後期課程ともに、研究指導を担当するのは、学生が所属している専攻の教授・准教授となります。

### 井川 肇 教授

国際基督教大学卒。カリフォルニア大学アーバイン校大学院留学、Ph.D. 取得。理論言語学専攻。生成文法の枠組みの下での日英語の比較研究を行っている。

担当科目：現代言語学諸問題、現代言語学特殊講義

### Richard Evanoff 教授

シカゴ大学大学院修了。英国ランカスター大学よりPh.D. 取得。研究テーマは国際倫理学。

担当科目：インターカルチュラル・エシックス、インターカルチュラル・ダイアログ

### 大久保 典子 教授

マドリッド南カルフォルニア大学卒。スペイン国立アルカラ大学よりPh.D. 取得。専門は20世紀前半のスペイン演劇。

### 抱井 尚子 教授

青山学院大学国際政治経済学部卒。ハワイ大学大学院よりPh.D. 取得。専門は多文化心理学、異文化コミュニケーション、混合研究方法。がん患者の心理社会的問題で海外との共同研究を行っている。

担当科目：国際コミュニケーション特講、ヘルス・コミュニケーション

### 狩野 良規 教授

東京外国語大学卒業、同大学院修了。専攻はイギリス文学・演劇学・映画論。

担当科目：比較文化特講

### 國分 俊宏 教授

早稲田大学第一文学部卒。同大学大学院修了。パリ第3大学博士課程留学、文学博士号取得。専門はフランス文学、表象文化論、日仏翻訳論。

担当科目：比較文化特講

### 猿橋 順子 教授

青山学院大学国際政治経済学部卒。同大学院博士後期課程修了、博士（国際コミュニケーション）。専門は社会言語学および言語政策研究。

担当科目：国際コミュニケーション論、言語政策論

### 末田 清子 教授

立教大学社会学部卒。カンザス大学大学院およびカリフォルニア州立大学大学院修了(MA)。英国ランカスター大学よりPh.D. 取得。専門は異文化コミュニケーションおよび対人コミュニケーション。研究テーマはアイデンティティ、フェイス（面子）とコミュニケーション。

担当科目：コミュニケーション論、国際コミュニケーション特講

### 田崎 勝也 教授

ハワイ大学大学院修了、Ph.D. 取得。UCLA客員研究員、フェリス女学院大学准教授を経て本学に。専門は文化心理学、対人・異文化コミュニケーション、心理統計学。著書に『社会科学のための文化比較の方法』などがある。

担当科目：行動科学の統計学、多変量データの解析法

### 田辺 正美 教授

東京外国語大学卒。東京大学大学院修了。カリフォルニア大学客員助教授を務めた。専門は認知言語学。研究テーマは、認知とことばのインターフェイス。

担当科目：認知意味論、認知文法論

### 陳 継東 教授

北京大学哲学系卒、同大学院修了。東京大学より文学博士取得。研究分野は近代中国思想史・近代日中交流・近代中国仏教史。

担当科目：日中文化比較論

### 橋本 秀美 教授

東京大学文学部卒。北京大学中文系博士。専攻は中国文献学、学術史。

### Petr Podalko 教授

ノボシビルスク大学卒。同大学院歴史学専攻博士課程。大阪大学大学院博士課程修了。言語文化学博士。専門は世界史。専攻はユーラシア研究・移民問題・映画史等。

担当科目：比較文化論、ユーラシア文化論

### 渡邊 千秋 教授

上智大学大学院修了。スペイン国立放送大学より博士号取得。スペイン現代史専攻。

担当科目：地域文化特講

### 勝又 恵理子 准教授

ヒューストン大学クリアレイク校卒。同大学大学院修了(MA)。クレアモント大学院大学&サンディエゴ州立大学大学院よりPh.D. 取得。教育学専攻。専門は、異文化コミュニケーション・多文化教育。

### 鳥塚 あゆち 助教

東海大学大学院博士課程後期単位取得退学。専門は、文化人類学、ラテンアメリカ地域研究、牧畜文化研究。

# 修了方法

## 修士課程

修士課程の修了要件は、2年以上在学し、所定の単位以上を修得し、必要な研究指導を受けた上、一外国語認定に合格し、修士論文または特定課題研究成果の審査および最終試験に合格することです。修了方法には「修論研究」と「課題研究」とがあり、修了要件は各修了方法により異なります。「修論研究」は、研究指導教員の指導により修士論文を作成しその論文審査に合格して修了する方法です。

「課題研究」は、課題研究の成果を作成しその審査に合格して修了する方法です。

修士課程の修了要件を満たした時は、下記の修士学位が授与されます。

国際政治学専攻 …… 修士（国際政治学）

国際経済学専攻 …… 修士（国際経済学）

国際コミュニケーション専攻 …… 修士（国際コミュニケーション）

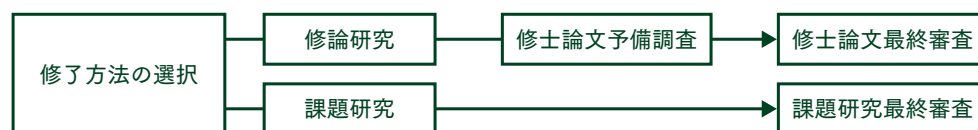
### ● 修論研究

必修	2年次配置「演習I」 「演習II」	2単位 6単位
選択必修	A・B群科目より	12単位
選択	A群科目 B群科目 C群科目より	10単位
計		30単位

### ● 課題研究

必修	2年次配置「演習I」 「演習II」	2単位 6単位
選択必修	A・B群科目より	18単位
選択	A群科目 B群科目 C群科目より	12単位
計		38単位

### ● 修了に向けてのプロセス



## 博士課程後期

博士後期課程の修了要件は、3年以上在学し、かつ必要な研究指導を受けた上、外国語の認定に合格し、博士学位申請論文の審査および最終試験に合格することです。また、国際政治学専攻および国際経済学専攻については、研究指導演習として6単位の修得が必要です。

博士後期課程の修了要件を満たした時は、下記の博士学位が授与されます。

国際政治学専攻 …… 博士（国際政治学）

国際経済学専攻 …… 博士（国際経済学）

国際コミュニケーション専攻 …… 博士（国際コミュニケーション）

### ● 博士学位申請論文提出要件およびプロセス



# 研究テーマ

## 国際政治学専攻

### 修論研究

- 1992年天皇訪中と日米関係 ―中国の孤立回避のための日米外交協調
- 中国の国連PKO政策 ―国連PKOにおける武力行使に焦点を当てて
- 戦間期日本と紛争の平和的解決
- 世界銀行によるアフガニスタン復興支援 ―対反乱の視点から
- 中国の軍拡がもたらす日米同盟のネットワーク化促進
- 1970年代の極東での日ソの影響力の変容 ―戦略文化とスマート・パワーから―
- なぜ英国はアデン危機（1962～67）において英国の古典的対反乱原則の適用に失敗したか

### 課題研究

- Chinese American Political Participation in U.S. Election: How Chinese American Organizations Help Politicians Win Elections
- 規範受容スパイラルモデルの有用性についての検証 ―エルサルバドルの人権規範運動を通して―
- スパイラー問題と関連してのリベラル・ピースビルディングの成否要因の考察：シエラレオネとリベリアにおける事例
- 独ソ関係と日米開戦

### 博士論文

- 海洋国家における陸上戦力の役割と規模 ―なぜ日本は陸上戦力を重視してきたか―
- 戦後台湾における対日関係の公的記憶 1945～1970s
- COCOMからWAへ ―冷戦後の輸出管理レジームの模索―
- 冷戦期の同盟政治における大国の不安とその同盟国の影響力 ―ベルリン危機における米・西独関係―
- 戦後米国の海外基地拡大政策の起源 ―戦略と対接受入政策―

## 国際経済学専攻

### 修論研究

- 中国における金融市場調節 ―VARモデルによるリーマンショック以降の金融政策の検証―
- 東京港の整備における定率特定補助金（ビグー補助金）の妥当性に関する実証的研究
- アジアのFTAはどれ程の貿易創出効果をもたらしたか～用途別財分類による実証分析～
- 日本の金融政策の実証研究
- 政府 VS 関係的契約 ―日本における職務発明規定（特許法35条）から得られる新たな証拠―
- 日本の新興市場は、健全企業を育成しているのか？ ―東証マザーズに上場する企業の財務データを用いた実証分析―
- 現代日本女性における就業選択の変動要因について ―東大社研若年パネルと壮年パネルを用いた計量分析―
- 広告が消費者行動に与える効果の分析
- 日本の介護産業における企業M&Aに関する研究 ―介護保険制度との関係性及び収益性への効果を中心に―

### 課題研究

- 性別の労働需要の分析 ―日本の製造業のケース―
- 大正バブル経済 ―平成バブルとの比較による検証―
- 中国の非正規金融についての研究 ―温州の民間金融を例として―
- 日本のREIT市場に関する実証分析 ―株価と金利及び日銀の金融政策がREIT市場に与えた影響の検証―

### 博士論文

- 農業保護の手段選択に関する政治経済学的研究 ―日本における関税保護の決定要因と補助金への転換条件―
- 中小企業金融における金利設定行動の要因分析 ―日米中小企業金融サーヴェイ・データに基づく比較研究―

## 国際コミュニケーション専攻

### 修論研究

- 大学生の「断り方」に見られる日本人と韓国人の面子の比較研究
- 日越医療通訳者の異文化ファシリテーターとしての役割
- 「グローバル人材」の要件に関する一考察
- 日本における若年ゲイのつながり ―現実社会とツイッターに着目して―
- シンガポール「建国の父」リー・クアンユーの言語イデオロギー ―公用語の位置づけへの反映と英語帝国主義との関係―
- 高等学校の教師が避けるべきFTA
- サービス・エンカウンターにおけるDuchenne-smileと非Duchenne-smileがおよぼす印象形成の検討
- 日本人大学生の内向き志向に関する実証研究

### 課題研究

- ベトナム人留学生の日本語学習への動機づけの特徴
- Classifierを持つ言語と持たない言語の違いについての一考察：Dの有無との相関性について
- 第二言語習得と母語獲得の平行性について：機能範疇の欠如に焦点を当てて
- ホールデンの生きづらさとアリーの死 ―サリンジャー『ライ麦畑でつかまえて』(1952)の一考察
- 中西伊之助が見た「台湾の真の風味」について

### 博士論文

- 通訳のコミュニケーション調整仮説 ―英日逐次通訳の事例から―
- 視覚スキーマを用いた意味拡張動機づけの分析 ―完遂を表す複合動詞「～きる」「～ぬく」「～とおす」の場合―
- 参加型がんチャリティ・イベントにおける参加者間での病気に基づく差異の創出とその調整の過程 ―「医療従事者」と「がんサバイバー」のコミュニケーションの相互行為的ポジショニング分析から―
- 日本語における非典型的な使役者の選択とその動機づけ ―他動性と受動性―
- Constructing Models of Japanese Conversational Indirectness on the Basis of Empathy and Nonverbal Social Skills

# 入学試験概要・入試日程

本学大学院国際政治経済学研究科の修士課程では様々な種別の入学試験を実施しており、それぞれの要件を満たした者に受験資格が与えられます。博士後期課程は、一般入学試験の1種別のみです。出願資格等の詳細は必ず募集要項でご確認ください。

## 修士課程

### ●一般入学試験（秋・春）

#### 出願資格・特記事項

TOEIC730点以上、TOEFL PBT550点以上・iBT79点以上、IELTS オーバーオール・バンドスコア 6.0 以上、英検準1級以上のいずれかの英語資格を有している者のみ出願可。

#### 選抜方法

#### ■国際政治学専攻／国際コミュニケーション専攻

第1次審査：専門科目

第2次審査：口述試問（書類審査を含む）  
（第1次審査合格者のみ）

#### ■国際経済学専攻

口述試問（書類審査を含む）

※ただし、出願時に、日本経済学教育協会実施の経済学検定試験（ERE ミクロ・マクロかEREのどちらでも可）またはGRE（Economics）のスコアの提出が必須

### ●社会人入学試験（秋・春）

#### 出願資格・特記事項

大学卒業後3年以上経過した者、または企業等に勤務している有職者。

TOEIC730点以上、TOEFL PBT550点以上・iBT79点以上、IELTS オーバーオール・バンドスコア 6.0 以上、英検準1級以上のいずれかの英語資格を有している者のみ出願可。

#### 選抜方法

口述試問、書類審査

### ●アカデミック・リターン入学試験

#### 出願資格・特記事項

官公庁、企業、ジャーナリズム、あるいは教育などの分野で活躍し、入学時に20年以上の実務経験を持つ者（退職者も含む）。

#### 選抜方法

口述試問、書類審査

### ●外国人留学生入学試験

#### 出願資格・特記事項

外国籍を有する者で、大学を卒業した者および卒業見込の者。外国において、学校教育における16年の課程を修了した者は「日本語能力試験」N1合格、もしくは「日本留学試験（日本語）」で240点以上取得の者に限る。

また、TOEIC600点以上、TOEFL PBT500点以上・iBT61点以上、IELTS オーバーオール・バンドスコア 5.0 以上のいずれかの英語資格を有している者のみ出願可。

#### 選抜方法

口述試問、書類審査

### ●クレジット・トランスファー入学試験

#### 出願資格・特記事項

国際政治経済学部在学時に大学院授業科目特別履修生として大学院科目を受講した者で、既に大学を卒業し、科目特別履修後10年以内の者

#### 選抜方法

口述試問（書類審査を含む）

その他、学内進学者選抜試験も実施しています。

## 博士後期課程

### ●一般入学試験

●修士の学位または専門職学位を有する者及び2018年3月取得見込みの者

●外国において、修士の学位または専門職学位に相当する学位を授与された者及び2018年3月取得見込の者

●文部科学大臣の指定した者

●本大学院において、個別の入学資格審査により、修士の学位または専門職学位を有する者と同等以上の学力があると認められた者で、入学時に24歳に達した者

国際政治学専攻及び国際経済学専攻については上記いずれかに該当し、かつ英語資格または日本語資格を有する者（母語は除く） ※詳細は募集要項で確認ください。

#### 選抜方法

#### ■国際政治学専攻／国際経済学専攻

論文審査、口述試問（書類審査を含む）

#### ■国際コミュニケーション専攻

第1次審査：外国語

英語、日本語より1科目選択（母語を除く）。

※ただし、研究テーマによって、申請により認められた場合以下の言語で受験することができる（母語を除く）。

ドイツ語、中国語、ロシア語、フランス語、スペイン語、韓国語

第2次審査：論文審査、口述試問（書類審査を含む）  
（第1次審査合格者のみ）

## 2018年度 入学試験日程

課程	入試種別	専攻	出願受付期間	試験日
修士	一般(秋)	国際政治学専攻	9/11(月)~9/14(木)	第1次:9/30(土)
		国際コミュニケーション専攻		第2次:10/14(土)
		国際経済学専攻	9/11(月)~9/14(木)	10/14(土)
	社会人(秋)	国際政治学専攻	9/11(月)~9/14(木)	10/14(土)
		国際経済学専攻		
		国際コミュニケーション専攻		
	一般(春)	国際政治学専攻	1/5(金)~1/10(水)	第1次:1/20(土)
		国際コミュニケーション専攻		第2次:2/3(土)
		国際経済学専攻	1/5(金)~1/10(水)	2/3(土)
社会人(春)	国際政治学専攻	1/5(金)~1/10(水)	2/3(土)	
	国際経済学専攻			
	国際コミュニケーション専攻			
アカデミック・リターン	国際政治学専攻	1/5(金)~1/10(水)	2/3(土)	
	国際経済学専攻			
	国際コミュニケーション専攻			
外国人留学生入試	国際政治学専攻	10/23(月)~10/26(木)	11/25(土)	
	国際経済学専攻			
	国際コミュニケーション専攻			
クレジット・トランスファー	国際政治学専攻	1/9(火)~1/11(木)	2/3(土)	
	国際経済学専攻			
	国際コミュニケーション専攻			
博士後期	一般	国際政治学専攻	1/5(金)~1/10(水)	2/17(土)
		国際経済学専攻		
		国際コミュニケーション専攻	1/5(金)~1/10(水)	第1次:1/20(土) 第2次:2/17(土)

詳しくは Web サイトをご覧ください。

■ 青山学院大学公式サイト

<http://www.aoyama.ac.jp/>

■ 国際政治経済学部・国際政治経済学研究科サイト

<http://www.gsipec.aoyama.ac.jp/>

## FAQ (よくあるご質問)

**Q** 週に何回通えば良いのかを知りたい。

**A** 修士課程を標準修業年限（2年間）で修了する場合、1年生では週4-5日程度、通う方が多いです。

**Q** 入学試験の過去問題は見ることができますか。

**A** 学務部教務課 国際政治経済学研究科窓口（青山キャンパス）にて閲覧できます。

**Q** 入学試験出願前に教員に連絡をとる必要がありますか。

**A** 修士課程の場合、入学試験出願前に教員に連絡をとる必要はありません。

**Q** 企業に在職したままで、入学することは可能ですか。

**A** 可能です。



青山学院大学 大学院  
国際政治経済学研究科

---

【青山学院スクール・モットー】

地の塩、世の光

The Salt of the Earth, The Light of the World

---